

我妻榮記念館

だより

第 29 号

発行日/2024年12月13日

発行/公益社団法人 米沢有為会

我妻榮記念館

〒992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL・FAX 0238-24-2211

よろしくお願いいたします

我妻榮記念館 館長

土屋 宏



土屋宏館長

呈式を行いました。そのときに子どもたちに話したことをお伝えし就任のあいさついたします。

この4月より、我妻榮記念館館長を務めております土屋宏です。よろしくお願いいたします。記念館では、将来を担う小学生に郷土の偉人を知ってもらうため、令和元年より毎年米沢市内の小学5年生に我妻榮先生の副読本を贈呈する事業を行っています。今年は10月11日に市内の小学校を代表して興譲小学校にて贈

私は、今まで3回興譲小学校に勤めました。40年以上も前になりますが、昭和57年、初めて教員になってスタートしたのが本校で、7年間勤めました。そのときは、プールと給食室の間に、もう一つ体育館がありました。次は、平成16年、教頭として2年間勤めました。その時は、関根小学校の校舎が使えなくなり、85名の関根小の子どもたちが4月から9か月間本校で勉強しました。南校舎2階が関根小学校、1階と3階が興譲小

学校でした。みんな仲良く生活していました。さらに、平成27年、今度は校長として4年間勤めました。その時に、グラウンドの北側に遊具を新しく設置しました。当時の子どもたちもターザンロープに大喜びでした。皆さんが大好きな興譲小学校、私も大好きです。

さて、私が校長を務めていた平成29年にとってもうれしいことがありました。それは、「まがき文庫」をつくってくださった皆さんの大先輩であり、法律学者として世界的に有名な我妻榮先生のお孫さんご夫妻とひ孫さんが興譲小学校にお出でになったことです。三人はまがき文庫のたくさん

の本と榮先生の写真や色紙、さらには、榮先生が贈ってくださった集会所にあるピアノなどをご覧になり、榮先生がどんなにか母校の後輩を大切に思っておられたのかと、感動しておられました。

榮先生が興譲小学校で学んでおられた頃は、家が貧しく欲しい本も買ってもらえなかったそうです。「自由に好きな本を読めるようになったらどんなにうれしそうだろう。」これが小さい時から持ち続けられた先生の夢でした。先生は、けんめいに勉強され、東京大学の法学部長などいろいろな立場でご活躍なさいました。米沢市の名誉市民でもあられます。

昭和44年5月30日、先生が72歳の年に、奥さんと興譲小学校にお出でになり、全校児童の前で、社会に役立つればな人になってくださいと励まされ、724冊の本と三つの本棚を贈ってくださいました。そして、これからも毎年、よい本を贈りましょうとお約束をなさいました。先生は昭和48年、76歳でお亡くなりになりましたが、今でも、毎年本を贈っていただいております。今から7年前の平成29年で贈っていた本は総数が5700冊を越しておりましたから、今ですと6000冊ぐらいになっているのではなにかと思います。本当にあ

りがたいことです。米沢市の小学生の皆さんにもっと我妻榮先生ののことを知ってほしいという願いで、令和元年より毎年、市内の小学校5年生の皆さんに全員に、「故郷を愛した民法学者我妻榮先生」の副読本をお贈りしています。本校のまがき文庫のことも載っていますので、是非、読んでみてください。さらに、家族の皆さんにも紹介してほしいと思います。

最後に、やっとコロナも少しずつ収まってきましたので、是非、記念館を見学に来てください。日・月・木・金の午後1時から午後4時まで開館しています。見学は無料です。場所は、鉄砲屋町のさの医院の東隣です。本日、一緒に参りました佐藤事務長が対応いたします。記念館には、我妻先生が東京大学の法学部長をお勤めのときの机があります。ここに座ると成績が上がる、夢がかなうという言い伝えがあります。皆さんの中で成績をよくしたい、夢をかなえたい人は、是非、我妻榮記念館に足を運んでください。お待ちしています。

本日は、この場を設定していただきました興譲小学校山口玲子校長先生はじめ教職員の皆様、贈呈式に同行していただいた記念館運営委員の高橋節子様感謝を申し上げます。ありがとうございます。

退任に当たり「思うこと」や「心残りのこと」など



矢尾板前館長

我妻榮記念館 前館長

矢尾板 操

今度の記念館だよりの原稿を依頼されました。

思い返せば、2017年6月から2024年3月まで約7年間、我妻榮記念館館長職に就いていました。

その間偉大な人格の館長ということで、「身の丈に合わないぬいぐるみを着ていた」ように思います。

当初の痛烈な印象は……まだ就任間もないころ、駐車場にいた時に神戸ナンバーの車が停車しました。出てきた男女二人は玄関に立ち第一声「開館していてよかった」という言葉を発したのです。それはどうもこういうことらしい……以前訪ねた時は開館日

でなかったようだ。神戸からわざわざ来て閉まつていれば縁がなかったとあきらめるのが普通でしょうに。再挑戦に頭が下がる思いがしました。

そこには巡礼者を見る思いがします。まさにイエス・キリストの生誕地・聖地を訪ねる人達に重ねて見えてしまいました。

ある時、山形地方検察庁のM検事正（山形県のトップ・女性）が訪ねてこられた。何度か足を運ばれるので、聞いてみたところ「判断に迷うときここに来る。そのものずばりの答えがあるときもある。

もしなくてもこの場所で我妻榮先生ならどのように考えるだろうと思うと自然にヒントが得られるのだ。」と。その後MさんはO検事長を案内してくださいました。

このように訪ね下さる多くの方たちとの出会いが、我妻榮先生という人格者を身近に感じる機会になりました。

普通「偉い人というのは、その分野で一流でも人格は今一つというのが相場らしい。なぜなら人を押しのけないと偉くなれないからだ。」そうです。

我妻榮先生は公の分野でも、個の分野でも優れていた。誰かが言っていた……「氏の孝心、友情を初め、師を思い、母校を導き、郷土を思い、国に尽くすなど、世の所謂俊才、学者に類を見ないあたたか味のある、麗しい人材、稀世の俊才、学者と謂うべきではなからうか」と。

やはり一番の出来ごとは2023年10月の記念事業だったと思います。この事業は無事終わったので「成功した」「よかった」という評価を頂いたようです。

そこが私の心残りなのです。あの偉大な人格を顕彰するには不十分ではなかったかと。我妻榮先生に多少近づいた身

としては、等身大の我妻榮先生を発信できなかったという悔しさがあります。

それはこんな事情です。2

023年の8月私はコロナに感染しました。その後も体調が整わず、所謂コロナ後遺症に悩まされました。力が入らない、やる気がおきない、だるい等々一番大事な直前の準備時期がそうでした。パネルデイスカッションは事前打ち合わせなし、まさにぶっつけ本番の状態での突入でした。パネリストの方達がよくお話くださりまた時間に助けられたようなものでした。

もう一つ本当のことを言えば、メインの講師は当初故外岡秀俊氏でした。

氏は元朝日新聞本社の編集局長でかつ小説家でもありました。朝日新聞の社長にも擬せられた人格者です。2021年12月23日急逝されたのです。その前日に氏よりメールを頂戴し、「有斐閣から評伝の発刊も決まったから、安心して正月を迎えてほしい。」と内容でした。もし外岡秀俊氏が存命であれば、評伝も刊行され、仮定の話ですが朝日新聞の後援を受けたもった大々的な記念事業になった筈な

のです。

そんなことから私には大きな心残りになっています。

体調不良や力不足から、私は先に述べた通り2024年3月に退任しました。

我妻榮先生の灯は聖火のよう

に引き継がれます。

我妻榮記念館は今後も土屋宏館長と佐藤敏孝事務長の下で永続します。あの偉大な人格は決して消えることなく真実として存在していました。ただ世の人が知っているかわからないだけの違いです。法律の燈台として記念館が末永く栄えることを祈っています。

もう一つの心残りは評伝です。あれだけ有名な先生なのに評伝がないのです。幸い、佐藤良一元毎日新聞記者が評伝を執筆中です。それが刊行され世に出ることを楽しみにしています。

最後にその間大過なく過ごせたのは、市の協力、運営委員や米沢有為会等の関係者の方々の支援、それと日々の業務に邁進された手塚正氏の存在がなかったらできなかったことでした。

長い間本当にありがとうございました。

近況報告 1 (2024.7.27)

1. 人事について

館長を務めていただいていた矢尾板操氏が 3 月 31 日を持って退任し、後任に 4 月 1 日より土屋宏が就任しました。また、管理人を務めていただいた手塚正氏が 6 月 30 日を持って退任し、後任に佐藤敏孝が就任し、職名を管理人から事務長へと変更しました。

2. 展示環境及び活動環境の整備について

(1) 空調設備一式 (2 台) 及び電気工事

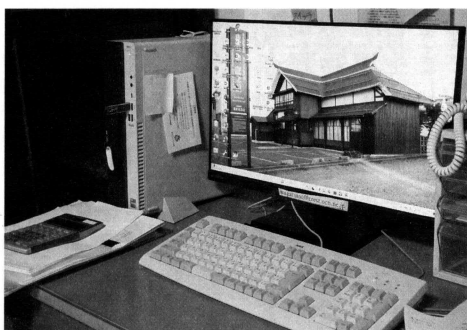


茶の間・床の間のエアコン



室外機 1 (建物西側)

(2) パソコン更新 (事務用とアーカイブ閲覧用)



事務用パソコン

3. 「我妻榮先生に学ぶ会」

自頼財団奨学生への館長講話の実施について

6 月 30 日 (日)、興譲館高校吉田直史校長先生、石黒宏治先生と今年度の新規自頼奨学

生 9 名が来館。記念館の清掃作業ののち、館長講話を行いました。

近況報告 2 (2024.9.28)

1. 展示環境及び活動環境の整備について

椅子 (20 脚)、机 (8 台)、カーペット設置

2. 来館者の動向

4 月	24 人 (22 人)
5 月	42 人 (34 人)
6 月	45 人 (26 人)
7 月	29 人 (22 人)
8 月	15 人 (23 人)

※ () 内は昨年度の人数
4 月から 8 月までの来館者については、昨年度と比較し若干増えています。



椅子、机、カーペット設置の様子

近況報告 3 (2024.11.9)

1. 令和 6 年度の副読本配布事業

米沢市内 14 校を代表して興譲小学校で贈呈式を行いました。

・日 時…令和 6 年 10 月 11 日 13 時 50 分

・会 場…興譲小学校 まがき文庫

・出席者…

5 年児童 17 名、山口玲子校長、黒田晋教頭、鹿俣顕典 5 年担任、高橋節子記念館運営委員、土屋宏館長、佐藤敏孝事務長

・次 第

1 開式のことば (来校者紹介を含む)
2 館長あいさつ



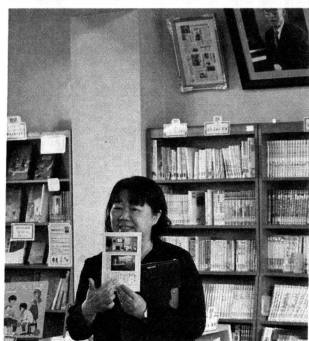
5 年生児童

3 副読本贈呈 (代表児童 2 名へ)、児童よりお礼のことば
4 校長先生あいさつ
5 閉式のことば



代表児童への贈呈

※その他の小学校 5 年児童 (興譲小を除き 574 名) には、10 月 10 日、小学校校長会の場 (伝国の杜) において、館長よりあいさつと共に贈呈をお願いしました。



山口校長先生

来館者のコーナー

☆2024・10・14
法制史と、分野は少し違いますが、我妻先生のような将来にわたって影響力のある成果を出せるようにがんばります!!
九州大学 N・R

☆2024・10・11
法実務処理に従事して48年。当初、民法の解釈上の問題が生じた時まず調べたのは、我妻先生はどう言っているかということでした。そうした年月は約20年は続いたと思います。判例も変わり、法律も変わりましたので、流石に近年はこうゆうこともなくなりましたが、それでも、私の書架に置いている法律書中で最も古いのは我妻先生の民法総則で、50年程前に求めたもので、今でも大切に保存しているのです。
弁護士 Y・S

☆2024・6・27
50年以上前に学生時代に学んだ民法総則を始め債権法・担保物権の本を見て青春に学んだ事が約40年の公務員生活の礎になってきました。感謝・感謝です。後の残りは孫の成長を楽しみにしている所です。
T・K

☆2024・10・4
大学で地元の大先輩だと知り法曹を志す者として一度は行ってみたいと考えていたところ、今回念願かなって訪問させていただきました。勉強で利用させていただいた先生の著作数々は、その真摯な研究への姿勢から生まれたものだと知り、深く感銘を受けました。同郷の後輩として法曹になるべく、井戸を掘り続ける

所存です。
東京大学法科大学院 H・T

☆2024・9・9
「井戸を掘れ」の言葉に共感しました。これからの進路選択の1つの指標にしたいと思っています。大学での研究を頑張りたいと思います。
新潟大学 Y・Y

☆2024・6・27
50年以上前に学生時代に学んだ民法総則を始め債権法・担保物権の本を見て青春に学んだ事が約40年の公務員生活の礎になってきました。感謝・感謝です。後の残りは孫の成長を楽しみにしている所です。
T・K

☆2024・6・23
朝ドラの影響で立ち寄りしました。権力の道に進むこともできずですが、学問一筋で自らの道を曲げなかった生き方に感銘を受けました。大変勉強になりました。
S・N

☆2024・4・28
我妻先生の研究に對

する熱心で、ひたむきで几帳面さを肌で感じる事ができ感動するとともに背筋が伸びる思いをしました。
弁護士 U・K

☆2024・4・18
中央大学法学部の授業で民法を学びました。我妻先生について多くの事を知ることができてとても感動しました。
K・M

☆2024・3・9
我妻先生のケタ外れの努力の形跡に接し、背筋伸びる思いです。日々の努力を肝に銘じます。
弁護士 N・T

☆2024・2・23
一度は訪れたいと思ってようやく来ることができました。朝早くから夜遅くまで研究を続けていた話お伺いしました。私も精進します。
弁護士 U・H

☆2024・2・5
先生の生家をお尋ねすることができて、研究意欲が高まりました。
早稲田大学 M・S

☆2024・1・15
大学生活最後の一年も頑張りたいと思います。また来ます。
I・K

入館者

施設利用者

平成4年度	312名	平成5年度	560名
平成6年度	635名	平成7年度	543名
平成9年度	791名	平成11年度	492名
平成14年度	172名	平成15年度	333名
平成16年度	423名	平成17年度	465名
平成18年度	434名		
平成19年度	393名		
平成20年度	425名		
平成21年度	440名		
平成22年度	360名		
平成23年度	232名		
平成24年度	486名		
平成25年度	484名		
平成26年度	480名		
平成27年度	243名		
平成28年度	463名		
平成29年度	444名		
平成30年度	488名		
令和元年度	364名		
令和2年度	252名		
令和3年度	163名		
令和4年度	287名		
令和5年度	414名		

※平成8・10・12・13年の入館者は不明、平成4・18年の施設利用者は資料なし。

(平成27年度、6月1～9月の間劣化改修工事のため閉館)
(令和2年度、4月5日～6月17日の間新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館)

記念館のスタッフ

よろしく願いいたします。

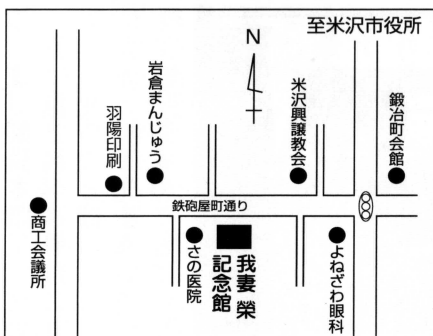
名誉館長	我妻 学
顧問	上村 勘
顧問	矢尾 敏
運営委員	安部 繁
運営委員	佐藤 隆
運営委員	高橋 節
運営委員	本多 彦
運営委員	山口 玲
運営委員	吉田 直
運営委員	土屋 宏
運営委員	佐藤 孝
事務長	藤 敏

運営委員は五十音順
(令和6年11月現在)

開館日のご案内

日曜日、月曜日、木曜日、金曜日を開館日とします。

開館時間帯は午後1時から4時まで
入館料 無料



〒992-0045 米沢市中央3-4-38
TEL・FAX0238-24-2211

我妻榮記念館 検索